

エコな買物 ~環境にやさしい買物をしましょう~

2008年6月22日(日)環境学習講座「エコな買物」(講師:カタログハウス竹本徳子氏)が開催されました。  
地球温暖化が進む今日、どんどん使って捨てる時代ではありません。商品を作る側(企業)としては「永持する」「修理できる」「回収再資源化可能」「地産地消」という考



えに基づいた商品の企画をすること。一方必要な物を必要なだけ買う、毎日の食事に使う食材の産地、フードマイレージを考慮する等、私たちに日常生活でできることは沢山あります。  
より良い環境づくりには私たち一人ひとりの環境に配慮した行動が大切です。

シロクマと地球温暖化 ~温暖化がシロクマの生存に影響を及ぼしている~

6月29日(日)環境学習講座「シロクマと温暖化」(講師:写真家 丹葉暁弥氏)が開催されました。  
地球温暖化は、北極圏周辺に生息するシロクマの生存にも影響を及ぼしています。  
何気ないわたしたちの日々の生活が、可愛いシロクマにも影響していることを、人間との共存という観点からお話し



ただきました。地球温暖化はシロクマにとって大変大きな問題です。温暖化により北極海の氷の面積が減り、また氷の張る期間が確実に短くなっています。氷がなくなるとアザラシが氷の上で子育てが出来なくなってしまうので、シロクマは主食であるアザラシが捕れなくなり、シロクマがアザラシに



出られる期間が短くなっており、今やシロクマは飢えに直面しています。  
年々個体数が減っているのが撮影に通っていて、はっきりと分かることでした。また今後30年以内には、絶滅してしまうのではないかと心配されています。温暖化は私たちの気付かないところでも確実に進行しているのです。

太陽光発電 ~未来のエネルギー社会に向けて~

7月15日(火)環境学習講座「太陽光発電~未来のエネルギー社会に向けて~」(講師:NPO法人 太陽光発電所ネットワーク事務局長 都筑建氏)が開催されました。  
個人住宅では今でも日本は世界一の太陽光発電の国ですが、これを伸



ばすことが未来のエネルギー社会形成のベースになります。  
将来に向けて地球温暖化ガスの削減は必須のテーマであり、そのためには太陽光発電を始めとした新エネルギーの普及なしには困難と言えるのではないのでしょうか。

(このパネル一枚で動く扇風機)



品川区環境情報活動センター 今後のイベント予定

鳥から見た環境変化

環境変化は鳥の生態にも影響しています。冬鳥であったヒヨドリやハクセキレイが越冬(夏でも日本を離れない)するようになり、1年中見られる鳥になりました。  
ツバメ、カラス、スズメの知恵や賢さについて興味を持っていただきながら、鳥から見た環境変化や身近な都市鳥の生態変化について話していただきます。  
日時/9月21日(日)14時~16時

さき布から「ぞうり」を作ろう

家庭にある古い布を使ってオリジナルのぞうりを作る講座で、ぞうり作りを通してリサイクルに関心を持っていただくことが目的です。2日かけ

てみなさん一足のぞうりを完成させて頂きます。春の開催に続く秋の講座で、毎回好評です。  
日時/9月23日(祝)と28日(日) 14時~16時30分

野菊の苔玉作り

かわいい野菊を、今流行の苔玉に植え替えて、オリジナルの素敵なオブジェを作ります。10月後半開花予定の花を使い、講座の後も作品を観賞していただけます。  
日時/10月2日(木)14時~16時

白熱電球はなくなる?次は湯沸器が~省エネをやさしく科学する~

身近な製品で環境問題をやさしく考えます。  
日時/10月26日(日)14時~16時

講座の名称はいずれも仮称です。応募方法等については「広報しながわ」、品川区環境情報活動センターのホームページにて後日掲載します。

しながわECOだより2008年度Vol.2

発行:品川区環境清掃事業部  
編集:特定非営利活動法人 エコタウンしながわ  
発行日:平成20年8月30日  
住所:〒140-8715 品川区広町2-1 36 品川区環境情報活動センター内  
TEL/FAX:03-5742-6533  
E-mail:center@shinagawa-eco.jp  
HP: http://shinagawa-eco.jp/

本紙は古紙を配合した用紙で作成しています



2008年度 Vol.2

- 真夏の気温を2 下げよう -  
打ち水大作戦 しながわ 2008 一斉打ち水

8月2日(土)15:00から「打ち水大作戦 しながわ 2008(7月22日~8月23日)」の一斉打ち水が昭和通り商店会で開催されました。



当日は晴天で午後3時現在、周囲の気温は34 という暑さです。開始に向けてのカウントダウンに続き一斉に打ち水が始まり、こどもたちの元気な声が飛び交いました。  
打ち水では風呂の残り湯やこども用プールの残り水などの再利用水を使い、水道水は使いません。これが打ち水のルールです。

打ち水によって気温はどう変わったでしょう。周囲の気温はあまり変化していませんが、日向の地表面近くではなんと10 以上も下がり、暑さが少し和らいだように感じるという声が聞かれました。



打ち水終了後は、使ったジョウロや水鉄砲、うちわ、風鈴、エコバッグなどをお土産にいただきました。  
こどもたちの元気な声と笑顔が印象に残り、楽しかった打ち水会は無事終了しました。

環境記者活躍中

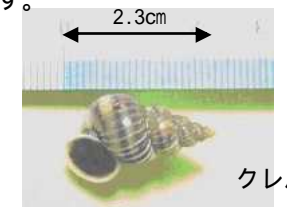
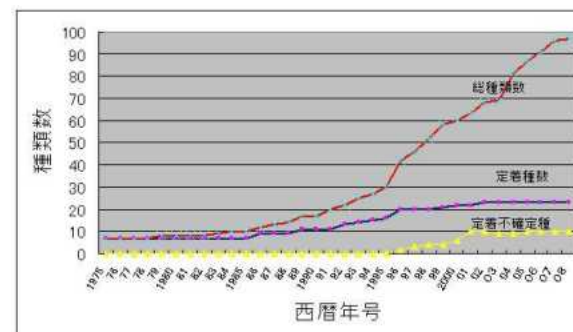
観察を開始した当初、運河の中には僅か7種類の貝しか見られませんが、最近は様々な貝が見られるようになりました。  
1995年まで運河の中の貝は非常に少なく、記録された種類は20年間で30種(2008年8月現在97種を記録)、定着種は15種でした。  
ところが1996年になると、これまで東京湾奥で見られた種類の貝が運河の中に現れ始めました。一挙に12種類もの貝が新たに見られたのです。これは観察を始めて20年間で初

環境記者の青野良平さんは京浜運河を観察して33年、「川がきれいになれば、海もきれいになる」ことの証明です

めて運河の中で見る大きな出来事でした。  
特に印象に残る貝では、1979年に1個だけ見つけたクレハガイです。自然の海岸でもなかなか見つけることが難しい貝で、大変珍しい貝とされています。そしてこの貝が運河で再び見られたのが1996年だったので、実に17年ぶりに見つかった貝、そして2000年からの定着につながって行きます。

1996年にこの現象が何故起こったのか。その答えを「目黒川に下水の高度処理水を流し始めた」との新聞記事に発見しました。またこの年を境に八ヶの酸欠による浮き上がりが減りました。  
目黒川への下水の高度処理水の放流は京浜運河に良い影響を与えてくれ

ましたが、やはり川は流れがないといけない、そんな印象を強く受けました。  
一方、生き物の生息には家庭排水の影響が大きいとよく聞きます。流しに流す水を少しでもきれいにすれば更に運河の水もきれいになり、魚の酸欠をもっと減らすことが出来ると思います。皆さんのちょっとした努力で運河の「住民\*」も暮らし易くなるのではないかと考えています。  
\*運河の生き物を品川区の「海の住民」と呼んで観察を続けています。



クレハガイ  
環境記者 青野良平さんの記事より

# 夏休み子ども環境学習講座

## 気象予報士から学ぼう・ストップ地球温暖化

1回目：7月25日、2回目：8月9日  
会場：品川区環境情報活動センター

気象予報士から講義と実験を通して「ストップ地球温暖化」について49人の小中学生が勉強をしました。第1回目のテーマは「地球はどうして暖まるのか」です。気象予報士の質問にみなさん元気よく手をあげ、正しく答えて行きます。



昔と今の生活を比べてみましょう。エネルギーを使う製品類が一杯あります。

エネルギーの節約を考えた生活の大切さが分かりました。

実験は部屋から出て外の温度を測ります。直射日光のあたるコンクリートの上は大変な暑さで、草の中や土の上では大きな温度差がありました。



部屋に戻り、今日学んだ

ことをそれぞれの思いを込めてうちに描きました。

第2回目のテーマは「温暖化でどんな影響があるか」です。

最近の最高気温が昔と比べ高くなっています。最高気温が35以上の日を猛暑日と呼ぶようにもなりました。東京でも4年前に39.5という



最高気温を記録しました。地球の気温が上昇し、日本ではこの100年間に1高くなっています。人間に当てはめると36.5が37.5になっている、微熱が出ているようですね。

一方、海の温度も上がっています。魚によっては獲りにくくなっています。またわずかですが海面水位の上昇もあります。



第一の実験は「海面上昇実験」です。水を満たしたフラスコの先にはガラス管がついていません。フラスコのまわりに湯を注ぐと、ガラス管の水が上昇します。水は温度が高くなると分量が増えることがわかりました。



もう一つの実験は手回し発電機を使った「竜巻発生実験」です。半分に切ったペットボトルの上部にファンがついており、手回し発電機でそのファンを回すと下にあるドライアイスの煙が上がります。



質問に答え、楽しい実験を通して地球温暖化を勉強したみなさんの顔には、やり終えた満足感が見られました。

## キッチンからはじめるエコロジー・地球にやさしい旬の料理をつくろう！

8月4日(月)から6日(水)の3日間、品川介護福祉専門学校内の調理実習室において「キッチンからはじめるエコロジー、地球にやさしい旬の料理をつくろう！」が開催されました。

身近な「食」を通して楽しみながら環境問題を考えるこの講座には、今年もたくさんの参加があり、キッチンでは連日、元気な子どもたちの熱気で一杯でした。エコ・クッキングインストラクターから環境に配慮した買物、料理、片付けに至る一連の流れの説明と、調理のデモンストレーションが行われました。ごみを出さない野菜の上手な切り方、汚れた皿は古布で拭いてから洗うなど、誰にでもできるエコポイントがたくさんあります。いま教わったことを確認しながら調理開始です。少し緊張ぎみですが楽しそうです。



メニューは「いろいろ入れてドライカレー」、「イタリアン卵スープ」、「キャロットオレンジ寒天」の3品です。

「いろいろ入れてドライカレー」は、冷蔵庫に残っている野菜や肉を使っておいしく出来るから、冷蔵庫の整理にもなります。野菜はできるだけ皮ごと使ってごみを減らす工夫をしましょう。



さあ出来上がり。作り終わった班から試食開始です。自分で作った料理の味はまた格別ですね。みなさん満足そう。



食べ終わったところで、次は後片付けです。水で洗う前に、小さく切った古布などを利用して汚れた皿を拭きます。そうすることで、汚れの半分以上が落ちてしまいます。

身近な「食」の中で、私たちにできるエコはたくさんありました。一人ひとりがエコを意識した生活をするのが、私たちの地球環境をとりもどす為の第一歩ということなのですね。



## 田植えをしました 稲が大きくなってきました！

5月21日(水)品川区役所屋上の田んぼで、二葉幼稚園児が田植えを行いました。毎年この時期に行っているもので、今年も13人が参加しました。みんな田植えはもちろん初めてで、順番を待つ間もはしゃいでいました。

この田んぼは、都市部のヒートアイランド現象の緩和等を目的に作られた庭園の一部で、普段は区の職員ボランティアが昼休み等を利用して世話や水やりを行っています。苗はもち米(もちみのり)です。



ボランティアの指導員は苗を手にとって「このくらいまで」と説明。説明を聞いた後、指導員をばさんで2人づつ田植えを開始しました。慣れない泥に足をとられ大変そうです。力を入れすぎ指導員の教えとだいぶ違って埋めすぎてしまったり、線の上に乗っすぐ植えられなかったりでしたが、無事役目を終えました。

次の子に交代です。役目を終わった子はバケツに汲んだ水で泥にまみれた手足を洗ってもらい、交代したともだちを見ていました。「もっとやりたい人！」という



稲はこんなに大きくなりました (撮影8月20日)

とみんながまた並んで順番を待っていました。結局みんな、2回から3回の田植えを経験。幼稚園の先生も飛び入りで参加し、大いに盛り上がりました。終了後は、「楽しかった」と喜んで帰りました。秋には収穫し、お餅となつて幼稚園のみんなの食卓にのぼります。

## 種まきをしました コスモスの花が咲きました！

6月15日(日)、「しながわ花海道」(勝島運河土手)で約500人が参加してコスモスの種まきが行われました。

まずは雑草刈りから始めなければなりません。これが大変、みなさん汗を拭きつつ雑草を刈り取りました。



「花海道」ではボランティアの方が交代で、時には一斉に雑草刈り、水やりなどの世話をしてくれています。今年の夏は雨が少なく、水やりが大変だったようです。こういったみなさんの協力があったはじめて、きれいなコスモスが見られるのですね。



8月下旬、コスモスの花が咲き始めています。9月から10月にかけては白、ピンク、紫色のコスモスが私たちの目を楽しませてくれるでしょう。また様々な形の花びらに注目してみると一層興味が増すのではないのでしょうか。



こちらは8月下旬に咲いているキバナコスモスです

コスモスが咲き始めました (撮影：8月23日)

10月19日(日)には「コスモスまつり&菜の花の種まき」があり、きれいなコスモスを手にすることができます。また菜の花の種まきにもご参加ください。3月には一面菜の花畑が広がります。こちら楽しみです。

「しながわ花海道」へ是非一度足をお運び下さい。最寄り駅：京浜急行 立会川駅、鮫洲駅 品川区勝島運河高潮護岸の土手周囲約2km

## 書評 コーナー



『できることから はじめています』 廣瀬裕子著 (株)文芸春秋 (本体1,238円+税)



著者を含め10人の環境にやさしい行動が紹介されています。海が汚れています、自分たちがすぐにできることはごみを捨てることです。アクリル製の手作りエコたわし、洗剤をあまり使わないで済みます。箸や水筒を持ち歩く。環境問題はひとりでは考えるより家族で話し合おうなど。

この本は、工夫次第で今すぐにも環境にやさしい生活ができることを紹介しており、ライフスタイルを見直す機会を与えてくれています。



『エコアクションが地球を救う!』 (データに学ぶエコ生活のすすめ) 東京大学教授 山本良一[監修] 社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会[編著] 丸善株式会社 (本体1,500円+税)

蛇口をひねれば出る水、捨てられるごみの山、いつでもどこでも買える清涼飲料、24時間いつでも開いているコンビニやレストラン。便利すぎる現代社会にわたしたちは慣れすぎてはいないでしょうか。こんな便利さは積み重ねて環境の悪化にポディーブローとなって効いてくるのです。てんぶらをした際の油をそのまま流しや下水に流している方はいないと思いますが、フライパンを使って調理した後の油はどうしていますか。ティッシュペーパーやペーパータオルの使い方はどうでしょう。

生活の視点から環境問題を考えるとともに、わたしたちのエコアクションについて、本書で一度チェックしてみたいかがでしょう。